

# 花園大学 日本文学科 通信

第3号  
通巻31号

二〇一〇(平成二十二年)年七月一日発行  
編集・発行 花園大学日本文学科  
〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町八一  
TEL (〇七五) 八二一―五二八―  
振替 〇一〇五〇―一四三九九五

## スイッチの切り替え

丸山 顯徳

ゲーテの有名な言葉に、「外国語を学ぶことは  
外国語を学ぶことである」という有名な言葉がある。これを中学の二年生の時に教えてくれた英語のハイカラな先生がいた。この先生は北村勉夫先生で、自らあだ名をつけて、「スイッチ」と呼んでくれと言った。そして私の授業は全て忘れてもよいが、私のあだ名の「スイッチ」だけは覚えておくようにと仰った。それで忘れないで、いつまでも覚えておくことにした。昭和三十年代前半のことである。人生で大事なことは、頭と心の切り替えである、ということであった。もちろん中学生の頃には、それほど価値のある言葉とは思えなかった。しかし、この高齢者になるまで、この教えを利用させていた。先生の言葉は今日まで、大いに役立ったことは言うまでもないことである。子どものころ、どうしてそういうことを教えてくれるのか、あまり関心がなかつたが、大人になり先生の言葉の意味が分かるようになってきた。北村先生の奥さんが、私の父の俳句仲間であった

ことを知ったことから、先生のことを父に聞いたことがあった。先生は早稲田大学の独文を卒業後、東京の朝日新聞社で活躍され、病気ののち田舎の中学校の英語の教員になったのである。有名な数学者岡潔の従兄であった。イギリス式の合理主義を我々中学生に教えてくれた先生でもあった。そんなことで私は、中学生のころ、時代の先端を行く新聞記者に憧れていたが、新聞記者という激職で病気をする人は少なくないことを知った。北村先生は、自分の波瀾の人生の中から、人生のエキス「スイッチ」を教えてくださいました。これはまことに有り難いことであった。それは、若い頃から「スイッチ」を切り替える訓練ができたからである。いづれ、この感謝の気持ちをあの世で北村先生に伝えたいと思っている。

(日本文学科主任)



## 本の森 文学の樹より

椿井 里子

i Padの日本発売が話題となり、期待や危惧で騒がしい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

共同研究室は、帙入り巻子本、綴じ本、おなじみの日本語・日本文学関連の文献各種、各大学・研究機関による逐次刊行物、そしてCD-ROMも擁する本の森、新種も珍種もどんと来い！と慌てることなく手ぐすね引いております。二〇一〇年は、本の流通や読み方の変化を見る上でも興味深い年になりそうです。

本年度の私は、国文学科の四回生ゼミと、創造表現学科の三回生ゼミを担当させていただきました。ります。共同研究室のある裁松館から新校舎(拈花館)まで行くのは、汗を拭きつつなかなか良い体力トレーニングになる距離で、花大の「広さ」に感嘆できたりしています。もちろん敷地のみならず、花園大学文学部の大きな樹の幹から、日本文学、創造表現へと枝も葉も広がり、新鮮なエネルギーが溢れています。

学生の皆さんは、社会に巣立つまで、この樹の中で存分に学び、挑戦し、考え、そしてほっこり和んだりしてください。そして、卒業生の皆様、どうかご縁がありましたら、社会に飛び立つ後輩たちをぜひ受け止めてやってくださいますようお願い申し上げます。

「金曜日はずみの日」というご記憶をお持ちの

卒業生の皆様もいらつしやると思っています。本年度は、就職活動等への配慮から、ゼミの時間が概ね木曜日になりました(ご担当の先生により別の曜日もあります)。ゼミの前後は共同研究室も賑わいます。在学生の共同研究室の利用はもろんのこと、卒業生の皆様がふと立ち寄つてリフレッシュして下さることを、道行さんも、秋山さんも、私も、書庫の本たち共々楽しみにお待ちしております。

(非常勤講師・共同研究室室員)

## 卒業生からの便り

### 大学院に進学して思うこと

根 来 孝 明

私は二〇一〇年三月に花園大学文学部日本文学科書道コースを卒業し、四月から大阪教育大学の大学院(美術教育専攻・書道コース)に通っています。大学院では、「書作品の鑑賞法を考察する」というテーマをたて、特に、江戸時代の禅僧である良寛の書作品と、それについて記された文献を通して、書作品における「鑑賞」とは何なのか、ということの研究をしています。

大学院は美術教育専攻になりますので、「美術」

(絵画や彫刻・陶芸など)を専門としている人たちと関わる機会を多く得ています。そこで感じているのは、自分が必死でやってきた書道を、その人たちに「ことば」で伝えることが、とても難しいということ。書道をしている人たちと、書道について語り合うことは比較的簡単ですが、まったく違う分野の人に自分のしていることを伝えるのは非常に難しく、日々苦戦しています。

研究も同じで、自分で考えたことを「ことば」で述べていくことが求められます。私は花園大学で主に作品制作をしてきたので、自分の考えを「ことば」で述べることは苦手です。制作で培った技術が全く役に立たないわけはありませんが、やはり今まで学んできた技術とは違う、「ことば」の技術が求められています。

私にとつて大学院での研究は、今までとは少し違う知識や技術を身につけなければならず、不安の方が大きいのが現状です。しかし、いろんな人と関わる機会を持つことで、毎日新鮮な刺激を受けられることもできますし、そこから自身の研究活動につながっていくことも少なくありません。これからも、人との関わりを大切にしながら、自身の研究を深めていきたいと思っています。

(二〇〇九年卒業生)



### 大学生生活に後悔はない

藤 居 郁 裕

僕が今現在、社会人となり四年間の大学生生活を振り返ってみて感じることは、「僕の大学生生活に後悔はない」ということです。僕自身が大学に入った時に、これまでの自分から人として成長したいという思いがあり、今までの自分に足りない実行力をつけるため「有言実行」という言葉をモットーとしていこうと決心しました。入学して卒業するまでの大学生生活は、勉強にしても遊びにしても、やってみたいと思つたことはほとんど実行してきました。また、やってみたいと思うことを実現するためには、それなりの準備や努力が必要であり、正直辛い日々や体調を崩したりした時間も多々ありました。でも、自分のやりたいことを実現した時の充実感、達成感は、そのやってきた努力の分だけ大きく、やりたかつたことも、その分楽しさが増し、その度にやってよかつたと思えるものでした。花園大学自体も自由な校風であり、学生のやりたいことができる良い環境であつたと思えます。

僕は花園大学で「努力する意味」「達成した時の素晴らしさ」ということを、身をもって体験し、学ぶことができました。この二つのことは、社会人になつた今でも役に立っています。朝がいくら早くても、どんなに面倒な仕事であっても、やり遂げたという達成感や努力に相応する結果が出た時は、何物にも代えられない楽しさがあります。

僕は大学生活から今現在を振り返っても、後悔は一切ないと言えます。

(二〇〇九年度卒業生)

## 近況報告

中村 貴子

花園大学を卒業後、日本生命に入社し、十七年目を迎えました。営業職で入社し、現在は営業管理職として、毎日新人育成に励んでおります。

生命保険の営業のイメージは、ノルマが厳しい、頑張らないと給与がない等、マイナスのイメージがどうしても強くなりがちですが、現在は業界も人材育成に力を入れております。特に社会経験のない新卒向けに研修体制を整え、固定給で安心して働ける制度となっております。

この様な整えられた環境で仕事をしていましたら、偶然にも花大出身のお客様と出会う事ができました。七歳年上の方なので、もちろん大学時代にはお会いした事はありませんが、先輩が頑張っているなら…と、同僚の方や取引先の方をご紹介いただいたり、ご自分の保険も見直しをさせていただきました。現在も会社でのゴルフコンペや、野球観戦ツアーに誘っていただき、楽しくお付き合いをさせていただいております。また日本生命の同じ職場にも、花大出身の同僚と先輩がいます。二人ともトレーナーに昇格しており、現在も一緒に頑張っています。

毎年五月〜六月のこの時期、就職活動の四回生の面接をしています。キラキラした瞳で、「人のお役に立てる仕事をしたい」という想いを、一生懸命にぶつけてこられると、私も初心に戻り、彼女たちと一緒に頑張ろうと心を洗われるような気がします。私も花大代表として、日生で頑張ります。もしご縁があれば、私が花大の先輩に助けてもらったように、先輩を全力で応援したいと思います。就職活動の時、気軽に遊びに来て下さい。

(一九九四年度卒業生)

## 大学北側の線路定点観察

日下部 貞治

国文学科を卒業して、早いもので10年と少し。あの頃を懐かしむこの頃です。在学中の4年間に学んだこと、出会いはかけがえないものとなりました。卒業後も京都に在住しその後の移り変わりを目に見えています。大学の近代化もさることながら、大学界限で一番変わったのは、大学北側の嵯峨野線の線路ではないでしょうか。大学界限には幼少期より縁があり、昭和50年代前半よりその推移を見届けてきました。

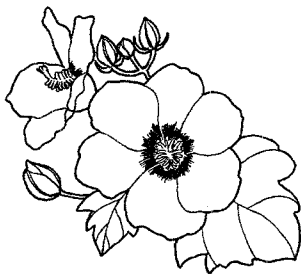
幼少期の花園駅は瓦葺きの平屋建てで、勿論自動改札などなく、平成元年ごろまで、改札口の上に何ともレトロな手動式巻き取り式の発車案内表示がありました。本数は少なく、走行中も開きっぱなしの手動ドアの古びた客車が多く残っていました。

入学当初、電化はされていたものの急行・特急はまだディーゼルカーでした。グラウンドで体育実技の授業中、古びたディーゼル急行がエンジンを唸らせながら通り過ぎるのをよく目にしました。まだ線路は地平にあり、丸太町通りに出るには必ず踏切を渡る必要がありました。それほど本数は多くなかったと思いますが、不思議といつも引つかかっていた記憶があります。また、大学最寄り駅は花園駅で、駅南側の住宅地を大勢の学生、教職員が歩いて通っていました。

そして現在、大学により近い円町駅が開業し、複線高架化、本数大幅増により、完全な都市型路線となりました。通学は格段に便利になり、また高架を上を走る車内からは大学がよく見え、いいPRになっていきます。

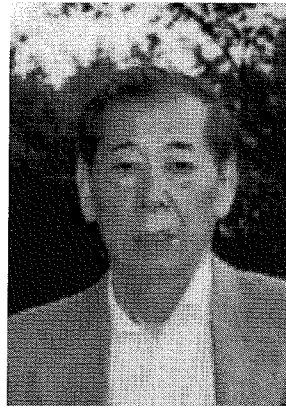
時代とともに変わっていくもの、残るもの。花園大学とその建学の精神は変わることなく受け継がれてほしい。

(一九九七年度卒業生)



## 新任教員紹介

十川 信介 客員教授



日本近代文学を研究しています。現代はあらゆる面で結論を急ぎすぎる傾向があり、文学テクストを読む際も、事件や話の筋が解ればいいと考える人もいるでしょうが、そこに含まれているおもしろさは、決してそこに止まるわけではありませぬ。テクストとは織物の意味ですが、その中にはいくつものコードが縦横に織りこまれていきます。

脇目もふらずに大通りを歩けば、目的地には早く到着しますが、街の姿やそこに住む人々の表情を見逃してしまいます。文学の読書も同じです。一見些末な記述に、書き手自身も意識していない問題が隠れていることがあります。テクストの露地にも入りこみ、人間生活のありかたをみつめましょう。

## ◎教員消息

濱田啓介先生の後任客員教授として、四月から十川信介先生が赴任されました。十川先生は近代文学研究の第一人者で、『二葉亭四迷全集』（筑摩書房）・『其面影』（岩波文庫）等の解説、新日本古典文学大系明治編『坪内逍遙 二葉亭四迷集』（岩波書店）の注釈、『日本近代文学案内』（岩波文庫）など、ご著書多数があります。なお、先生の講義は、年二回の集中講義です。四月より、曾根誠一教授が本学図書館長に就任されました。

## ◎花園大学日本文学会・公開講演会（無料）

日時 二〇一〇年十月三日（日）

会場 自適館 三〇〇番教室

講師 三村晃功 京都光華女子大学教授

内容 未定

※詳細につきましては、日本文学科のホームページに掲載予定ですので、御覧下さい。

※講演会の後、「懇親会」を開催する予定です。先生方や後輩たちとの楽しい懇談の場にしたいと思えます。ふるってご参加ください。

## ◎夏目房之介先生 マンガ講座（公開無料）

日時 七月三十一日（土）八月一日（日）

会場 無聖館ホール

## ◎二〇一〇年度『京都学公開講座』（無料）

日時 七月三〇日（金）～八月一日（日）

午後一時～四時二〇分

会場 無聖館ホール

内容 詳細は花園大学ホームページ・ポスター・チラシでお知らせする予定です。また、花園大学企画広報部までお問い合わせ下さい。

## ◎『花園大学日本文学論究』第二号

「書のかたち」 下野 健児

塗籠本伊勢物語における「よむ」と「くふ」 中橋 亜実

古本説話集下巻 本文と注釈

——第七〇話 関寺牛間事——

新聞 水緒

小沢蘆庵収集「写本家集」と清水浜臣・横山由清旧蔵家集

——『御堂関白集』『清慎公集』を通し

ての検討——

曾根 誠一

国民歌謡「夜明けの唄」と「DAYBREAK」

濱田 啓介

・受贈図書目録（平成二〇年一〇月～同二二年九月）